

【一過性の「支援」から、 人生を掛けた「志縁」へ】

忌まわしい東日本大震災から一

年。【大震災被害者数】：『死者』

Ⅱ 1万5854人。『行方不明者』

Ⅱ 3155人。(三月十一日現在、

警察庁まとめ)。『避難・転居者』

Ⅱ 34万3935人(二月二十三

日現在、復興庁まとめ)。以上の

様に発表されております。

米ルイジアナ州で起きたハリケ

ーンでは盗みを働く人がいたと報

道され、一方日本ではそうではな

かったと報道されました。メデイ

アの表に出ない話も沢山あります

が、確かに今回の被災者は冷静で

災害に強かったと誇りに思います。

思えば東北は縄文文化の中心地で

した。その東北人に強く残ってい

るのは「絆」。絆とは元々、馬の鼻

をつなぐ綱を意味し、制約であり、

煩わしいものですが、いざという

時にはセーフティネットになりま

す。その意味で東北は人間関係が

濃い。この国が高度経済成長期に

進んできた方向は、そういうものを
煩わしいとして排除する事でした。

しかし東北には、信愛の情を示す為
に近所にお茶飲みに行く文化や、
雄々しさが残っています。これこそ
東北人が世界に誇れる底力だったと
いえましょう。

福島では放射能の除染問題：国際
放射線防護委員会(ICRP)の基準で
は低いほど良いと発表されています。
放射線疫学の常識では、微量は必要
だとも明言しています。一体全体真
実はどこにあるのでしょうか？IC
RPが私達専門外の人間にも理解で
きる様に議論の場を作り、一つの答
えを出してほしいと願っています。

この一年で何が変わって、何が変
わっていないのでしょうか？大量の
瓦礫は取り除かれましたが、被災地
の瓦礫は小山のように積み上げられ
ています。街づくりはようやく具体
化の段階に入りましたが、槌音が聞
こえるのはまだまだ先の話です。復
興した街に人が住み続けるには働く
場が必要です。野田首相は「福島の再
生なくして日本の再生は無い」と所
信表明されましたが、その熱意は消
費税問題に翻弄され、消え去らない
か心配です。「新しい公共」は、新し

い復興への原動力となります。ボラ
ンティア団体の代表達は口々に「お金
が無い」と訴えていました。一年とい
う歳月は、個人にも企業にも寄付への
思いを弱らせている現状があります。

そんな中、私達に必要なのは知識より
も、人を想い、相手に寄り添う気持ち
なのだ改めて感じます。被災者の
みならず私達の誰もが喪失感を体験
しました。私達が被災者に対する時
は、引つ張るのではなく後ろから支え
、伴走しなくてはなりません。また、医
療は一つの手段にすぎません。震災後
多くのボランティアや芸能人、そして
アーティストが被災地を慰問されま
した。被災者いわく「ありがたいけれ
ど、一度きりだとかえって悲壮感が残
る」とこぼす方もいます。真の復興に
はコミュニケーションの再生が欠かせま
せん。「文化の炊き出し」の様な一過
性のイベント「支援」ではなく、もっ
と深い「志縁」のあり方を問う必要が
ありそうです。

新しい東北を興す為に、地域や人の垣
根を越えて結び、連携の幅を広げてい
く。これが復興へのキーワードだと思
います。

三月十一日は宮城県仙台市にある
『仙台市シルバーセンター交流ホー

ル』で開催された【未来へ向けた
鎮魂と絆コンサート】にお招き頂
き出演して参りました。

この主催が宮城県東松島市の沿岸
部にある【NPO法人・創る村(
飴屋善敏理事長)】です。東松島市
といえば、今回の震災で甚大な被
害を受けた地域の中でも三番目に
数えられた地域です。それも千人
以上の市民が亡くなったと発表さ
れています。

そんな東松島市で『真の復興』
を目指す団体の一つが、この【創
る村】なのです。先月各団体を視
察調査する中で、私自身今後永い
支援を志した団体の一つです。

そんな【創る村】から、三月十
一日のコンサートへの依頼があり、
当初予定していた岩手県での行脚
を即キャンセルして、出演依頼を
受けました。支援の形で大切な
は、相手が臨む協力をさせて頂く
事にあると思ったからです。

また驚くべき事に飴屋理事長は、
皇后美智子様と親交がありで、
昨年の震災後三月十五日頃に飴屋
理事長の携帯電話へ直接安否確認
をされたという、お二人の御関係
なのです。そんな飴屋理事長から、

私にコンサートでの開会のご挨拶、そして二時四十六分の黙祷のご挨拶と、黙祷の音頭をとってくださるのかという、誠に有り難い御依頼があつたのでした。開会のご挨拶では、「被災地に赴く事の出来ない方々も沢山おられます。被災地に

来られないから、心配していいわけではありません。また、私のように被災地に訪れたから立派というわけでもありません。私はあくまで、来られない方々の代表として、この場に立っています。今後、この被災地が完全復興するまで、日本の国民は皆様と共にあります」という様な主旨のご挨拶をさせて頂きました。また黙祷のご挨拶では、「私達は今あるこの生命を全力で生き切る事が何よりも大切なこと。私達が元気に生き抜く事、そして幸せになることが、犠牲になられた方々への供養でもあります」と。本当にそう思います。遺された私達が、あの震災から学ばなければいけない事が多々あると思います。そしてそれを後世に伝える使命があるのではないのでしょうか？

天災というのは、来るか？来な

いか？ではなく、自然界に生かさせて頂いている事を考えれば当然「来る」のです。ただそれがいつ来るのか？という問題です。私達は自然に対して敬虔な気持ちで生活しなければならぬことをいま一度確認しなければなりません。

また先のコンサートには、真成寺の谷川久仁子が主宰するラニ・フラ・ホアも十二名が参加しました。鎮魂のコンサートにフラダンス？と思われる方もおられるかと思いますが、現地NHK仙台放送局の女子アナをされている品川美咲さんいわく「フラというのは本当の癒しという事が分かりました。鎮魂という意味では、これ以上ない最高のモノ」と、これ以上ない賛辞を頂戴致しました。

私達はそれぞれ、自分にしかできない形での協力支援があると思います。三月十一日出発前には、若栗の柴垣光郎様より手作りのお味噌を大量に託されました。また飯田様には手作りのローソクを五十個も託されました。被災地で節電などに使用してほしいとの思いで真成寺にお持ちになりました。被災者の方々は一様に低頭され、心よりの感謝の言葉

を述べておられました。真成寺では今後あなたのお気持ちをお待ち致しております。物量の問題ではなく、大切なのは真のお気持ちです。真成寺ではあなたと被災者を繋ぐパイプになってまいります。色々とご提案頂ければと思います。

ちなみに先のコンサートはDVDとなり、美智子皇后陛下へ贈呈されるそうです。

三月十一日には各地で一周忌の復興イベントが沢山開催されました。しかしその多くは、一過性のお祭り騒ぎの様なイベントが多く見受けられました。真の復興とは何でしょうか？「情けは人のためならず」と申します。

東日本への一過性の「支援」ではなく、日本、いや人類という大きな意味での「志縁」を目指して今後も模索し、邁進して参ります。また各人のご指導をお願い申し上げます。

合掌

副住職 谷川寛敬



お知らせ

◎釈尊御降誕会法要

(花祭り)



・四月八日(日)

・午前十一時

お給仕(お講) 当番は、魚津2班の方々です。

どうぞ宜敷お願いいたします。

※尚、甘茶が欲しい方は、入れ物をご持参くださいませ。

また、一人でも多くの方に差し上げたいので、大き過ぎるペットボトル等は、ご遠慮下さい。